

乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.73

2020.6

遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)についてはこの乳がん高度検診・治療センターNEW-すでも何度か取り上げましたが、本年(2020年)4月からHBOC診療の一部に保険診療が認められることになりました。

遺伝性乳がん卵巣がん症候群の遺伝子検査 一部保険承認に!

■ HBOCの遺伝子検査

HBOCは、その原因遺伝子であるBRCA1やBRCA2遺伝子に異常(変異)があるかどうかを血液検査で調べることが可能です。これらの検査は遺伝的背景があるかどうかを知る目的でのスクリーニング検査としては保険診療の適応外でしたが、本年4月の診療報酬改定において、一部が保険適応となりました。

ただし本検査が保険の対象となるのは、乳がん発症者のうち以下を満たす方ならびに卵巣がん、卵管がんおよび腹膜がんを発症した患者さんです。

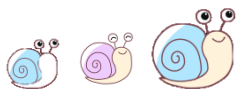
BRCA1/2 遺伝子検査が保険の対象となる患者さん	・発症、未発症に関わらず(本人以外に)すでに家系内でBRCA1または/かつBRCA2の病的バリエーション保持が確認されている
	・乳がんを発症しており、以下のいずれかに当てはまる ✓ 45歳以下の乳がん発症 ✓ 60歳以下のトリプルネガティブ乳がん*発症 ✓ 2個以上の原発性乳がん発症 ✓ 第3度近親者内に乳がんまたは卵巣がん発症者が1名以上いる
	・卵巣がん、卵管がんおよび腹膜がんを発症
	・男性乳がんを発症
	・がん発症者でPARP阻害薬**に対するコンパニオン診断の適格基準を満たす場合 ・腫瘍組織プロファイリング検査で、BRCA1または/かつBRCA2の生殖細胞系列の病的バリエーション保持が疑われる



(「遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)診療の手引き 2017年版」より引用)

* トリプルネガティブ乳がん：ホルモン受容体(エストロゲン受容体およびプロゲステロン受容体)とHER2がいずれも発現していない乳がん
 ** PARP阻害薬：現在市販されているものはリムパーザ(一般名：オラパリブ)

こうした要件を満たす患者さんでは遺伝カウンセリングを受けていただき、同意が得られれば当院でも保険診療下での検査が可能です。



■ HBOCに対する予防的手術

HBOCでは反対側の乳がんや卵巣がんのリスクも高いのですが、すでに乳がんを発症した患者さんでの反対側のリスク低減乳房切除術・乳房再建術やリスク低減卵管卵巣切除術も保険収載となりました。ただ、わが国でこうした予防的な臓器切除が保険適応となるのは初めてのことであり医療現場でもまだ戸惑いがあるのが実情です。現時点で当院では予防的手術は行っておらず、希望者があれば対応可能な施設へ紹介することになります。こうした予防的手術については、紙面の都合で別の機会に詳述します。

